

ロボット支援下腓体尾部切除を開始しました！

当院では2026年8月よりロボット支援下腓体尾部切除を開始しました(図1、2)。当院ではロボット手術を積極的に導入しており、2024年11月よりロボット支援下大腸切除、2025年4月よりロボット支援下胃切除術、2026年6月よりロボット支援下肝切除も行っています。

ロボット手術は術者が患者さんの隣に置かれたサージョンコンソールに座り、ペイシェントカート(ロボット)を操作して行う低侵襲手術です(図3)。腹腔鏡手術と同様におなかに小さな穴をあけて、カメラで腹腔内を観察し手術を行います。ロボット手術には以下の3つの特徴があります。①高精細3D画像：より高精細な3D画像により、奥行きのある立体的な高画質画像で手術が行えます。通常の腹腔鏡手術は、人間がカメラを持って操作するため、手術画面の揺れを避けることができませんでしたが、ロボット手術では、カメラは全く揺れないため、安定した視野で手術が行えます。②多関節機能がついた鉗子(図4)：従来の腹腔鏡手術では鉗子が曲がらないため、直線的な動きしか出来ず可動制限がありましたが、ロボット鉗子には多関節機能が付いており、体の奥深くにおいても人間の手のような複雑な動きが可能です。③手ぶれ防止機能：術者の手ブレを小さくする「モーションスケール機能」が備わっており、より精密な手術が可能です。

ロボット手術は傷が小さく、出血量も少ないため、患者さんの身体への負担軽減や術後の早期回復が期待されています。腓臓手術は高度な技術を要する手術ですが、根治性を保ちながら、なるべく患者さんにダメージの少ない低侵襲手術(ロボット手術や腹腔鏡手術)を積極的に行っています。これからもより多くの肝胆膵がん患者さんを救うために、最新の医療技術を積極的に取り入れながらチーム一丸となって診療に励んでいきたいと思ひます。

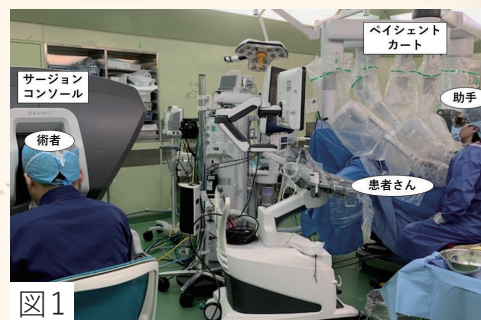


図1

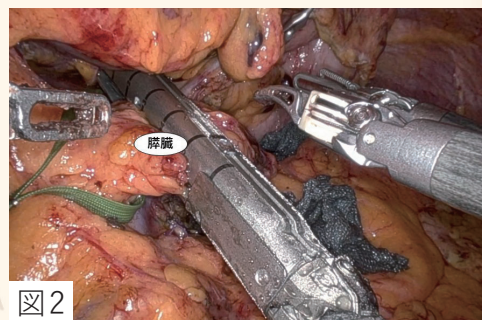


図2

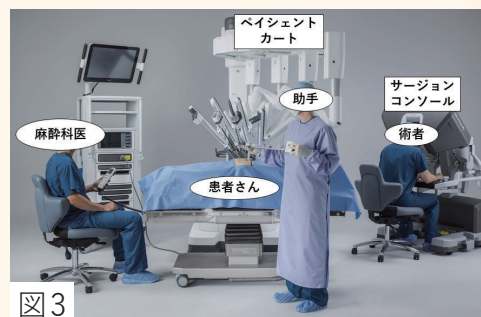


図3



図4